令和２年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立七尾特別支援学校珠洲分校

重点目標		具体的取り組み	主担当	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析　（成果・課題）及び次年度へ向けて（改善策等）	最終評価
1	授業実践力の向上	研究授業の指導案を当該部だけではなく、小中高の３つの部を混ぜたグループで検討する機会を設けることで、授業づくりを通して、自らの授業改善につなげていく。	教務課	授業改善に取り組めた教員の割合が Ａ：９０％以上 Ｂ：７０％以上 Ｃ：５０％以上 Ｄ：５０％未満	授業改善に取り組めた教員の割合が ７７％：Ｂ	今年度学校研究を通して、各学部２名の教員（計６名）が研究授業を行った。学部を混ぜた形式の授業検討会で、各学部の取組や授業実践について全体で情報共有・意見交換を行い、研究の経過や成果を共有することができた。それを受けて８割近い教員が自身の授業改善に生かすことができた。 次年度は、さらに授業検討会の在り方を充実させ、学校全体で一丸となって授業力改善に取り組むための仕組みを構築したい。	B
		学校関係者評価員会の評価		・他学部の教員が意見を出し合いながら授業を組み立てることは、いろいろな視点から授業を見直すことができると思うので今後も続けてほしい。			
		学校関係者評価員会の評価を踏まえた今後の改善方策		・互いの授業を見る機会を今後も積極的に設け、他学部からの意見を取り入れながら授業改善を図っていきたい。			
2	組織的・系統的なキャリア教育	保護者がわが子の高等部卒業後の姿を早い段階から意識できるような情報を各学部からも提供する。	進路指導課各学部	アンケートの結果「とても参考になった」「まあまあ参考になった」の合計の割合が Ａ：９０％以上 Ｂ：７０％以上 Ｃ：５０％以上 Ｄ：５０％未満	保護者アンケートの結果 １とても参考になった１０人 ２まあまあ 参考になった　１７人 ３あまり 参考にならなかった　２人 ４参考にならなかった　０人 「とても参考になった」 「まあまあ参考になった」 合計の割合は９３．１％：Ａ	組織的・系統的なキャリア教育として、保護者の方に早期から児童生徒の将来について見通しをもっていただくために、小学部、中学部、高等部、進路指導課からそれぞれキャリア教育の視点での取り組みを「キャリア通信１３号」まで情報を提供した。その結果、アンケートの集計では「とても参考になった」、「まあまあ参考になった」の割合が９３．１％と「キャリア通信」の内容については高い評価となった 次年度においても、保護者の方にわかりやすい進路関係の情報や各学部での取り組みについて情報を提供したい。	A
		学校関係者評価員会の評価		・キャリア通信で小学部の保護者にも早めに進路に関する情報を得ることができたのでとても参考になった。次年度も進路に関するいろいろな情報を広く伝えてほしい。 ・鵜飼駅創生プロジェクトなど地域の方々と触れ合う活動は地域が学校の子どもたちを知る上で、とても大切なことである。			
		学校関係者評価員会の評価を踏まえた今後の改善方策		・継続的に情報を発信することで保護者の意識が高まることが期待されるので、次年度以降も保護者のニーズを把握しながら発行していきたい。 ・高等部だけでなく、学校全体で地域との交流活動を展開していきたい。			
3	安心・安全な学校づくり	捜索訓練、避難訓練等安心・安全な学校づくりのための取り組み内容をWebページや生徒指導通信で複数回発信する。	生徒指導課	情報をWebページや生徒指導通信で発信した回数 Ａ：７回以上 Ｂ：５回以上 Ｃ：３回以上 Ｄ：３回未満	情報をWebページや生徒指導通信で発信した回数 5回：Ｂ	前期の活動内容について生徒指導通信1号を発信し、捜索訓練等について振り返った。後期には交通安全教室、避難訓練（津波）、人権教育講話を実施し、学校の安心・安全に関する実践を行うとともに、いまだ未解決の拉致問題を取り上げ人権侵害についての理解を深めた。 次年度は、コロナウィルス感染症に対応した火災・地震避難計画の内容を充実させ、実際の避難に役立てる内容に改善したい。	B
		学校関係者評価員会の評価		・今年度は新型コロナウィルスの関係で地域共同避難所訓練は行えなかったが、障害のある子が避難所で過ごせるよう訓練を実施してほしい。			
		学校関係者評価員会の評価を踏まえた今後の改善方策		・災害時、地域の方々と過ごすことを想定し、共同で避難所体験をぜひ実施したい。 ・緊急時において臨機応変な対応もできるように、日頃から職員同士で様々な危険を予測し共通理解を図るようにする。			

令和２年度　学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立七尾特別支援学校珠洲分校

<table>
<tr><th colspan="2">目標</th><th>具体的取り組み</th><th>主担当</th><th>実現状況の達成度判断基準</th><th>集計結果</th><th>分析　（成果・課題）及び次年度へ向けて（改善策等）</th><th>最終評価</th></tr>
<tr><td rowspan="3">４</td><td rowspan="3">業務改善に向けた意識改革</td><td>計画的・効率的に業務を遂行し、メリハリのある時間管理に努め、ワークライフバランスのとれた勤務を行うことでより良い業務につなげる。</td><td>全職員</td><td>アンケートの結果１と２を合わせた教員の割合が
Ａ：９０％以上
Ｂ：７０％以上
Ｃ：５０％以上
Ｄ：５０％未満</td><td>ワークライフバランスのとれた勤務を行うことで、よりよい業務につなげることが
１　できた　９人
２　まあまあできた　１１人
３　あまりできなかった　１人
４　できなかった　０人
１と２を合わせて　９５％であった。　：Ａ</td><td>通常の業務に加えて、新型コロナ感染予防対応で放課後の消毒や空気清浄機、加湿器の手入れ等の業務が増えた、一方で会議の時間を短縮したり、休校期間中オンラインでの朝の会や研究会等、これまでの業務を見直すきっかけとなり新たな可能性を感じることができた。また、珠洲ちょんがり節、リンゴ狩り、鵜飼駅創生プロジェクトなどを通して地域の方々や高校生との交流を進めることができた。
次年度は、校務支援システムやICT機器を効率に活用し児童生徒のより良い学びにつながるような業務を目指したい。</td><td>A</td></tr>
<tr><td colspan="2">学校関係者評価員会の評価</td><td colspan="5">・教員の超過勤務が増えることによって、身体面や精神面で負荷がかかり子どもたちと十分に向き合うことができなくなることが心配である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">学校関係者評価員会の評価を踏まえた今後の改善方策</td><td colspan="5">・計画的・効率的な業務を進め、「良い仕事は充実した私生活から」を目指し、心身共に良好な状態で子どもたちと接しながら、より良い業務につなげていきたい。</td></tr>
</table>